

登録コード	E8563400	開講年度	2026					
授業科目	卒業研究					担当教員	田島 達也	
英文授業名	Graduation research					副担当		
単位数	5	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		対象学生	4年生
講義室	教育研究室			授業形態	演習	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 Eカリ, 2 5 Eカリ, 2 4 Eカリ, 2 3 Eカリ, 2 2 Eカリ, 2 1 Eカリ, 2 0 Eカリ							
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観					⇔	音楽教育の専門家を目指すにあたって、音楽や声楽に関する知識や技能の重要性を認識し、それらの能力の向上を図ることが、より質の高い音楽教育に繋がることを理解すること。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能					⇔	学校音楽教育や声楽に関連したテーマについて、文献購読や実験、アンケート等の方法により理解を掘り下げ、未知の知識を身に付ける。また、多様な楽曲への実技演習により、楽曲に応じた歌唱表現の多様さを身に着ける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	合唱指導法・作品研究・発声法等、学校音楽教育や声楽に関連する卒論研究テーマを各自決め、その指導を行う。テーマに応じて研究方法や研究内容を検討していくとともに、先行研究等資料の探索方法も示し、より論理的な研究となるよう指導していく。また、声楽実技の演習も並行して行う。							
(5)授業計画	時期と内容は概ね以下の通りとする。 4月～6月： 研究課題の設定、先行研究や文献の検索、収集 7月～9月： 各自の研究課題に関する先行研究の整理と詳査。 10月～11月： 研究論文の素稿を作成。 12月～1月： 素稿を基に推敲を重ね、最終稿に仕上げる。 1月～2月： 卒論の提出。口頭発表に向けて、レジュメや資料集、パワーポイント等を準備する。 また、声楽実技の指導も並行して行う。							
(6)成績評価の方法	平常の取り組み（30％）、および卒業論文の内容とその発表（70％）							
(7)成績評価の基準	（i）問題の設定が適切であり、（ii）その問題の背景を説明できており、（iii）その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、（iv）それらの課題に対しての既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、（v）その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（i）から（v）の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。							
(8)事前事後学習の内容	学校音楽教育の課題や声楽や合唱、オペラについて、事前に書籍等を通じて基礎的な知識を得ておくこと。また授業後も、授業で扱った内容について、授業ごとに紹介する参考文献に目を通すなどして知識のより一層の定着を図る努力をすること。							
(9)履修上の注意	興味のあるテーマについて、下調べをしておくこと。 教育実習参加による授業欠席分の補講課題はealpsに掲載するので、課題を必ず提出すること。							
(10)質問、相談への対応及び連絡先	ttajima@shinshu-u.ac.jp までメールでお願いします。							
【教科書】	なし							
【参考文献】	なし							